

所属	国際交流研究科 国際交流専攻 修士課程	修了年度	平成 26 年度
氏名	張 莉	指導教員 (主査)	松本 逸也

論文題目	日本における韓流文化の存在意義 —日本のマスメディアが広めた韓流文化の研究—
------	---

本文概要

「韓流」とは、韓国ドラマなどの韓国大衆文化の流行を指す総称である。韓国の映画、テレビ、ドラマ、K-POP、料理、化粧品にまで及び一時的なブームにとどまることなく、韓流は今や日本でも身近な異文化として認知されている。グローバル化した消費文化の時代に、韓国政府や産業にとって韓国ドラマという媒体は、文化的産業として「韓流」を仕立て上げ、韓国のイメージを海外に提示し続けた。私は、来日して6年。東京一のコリアンタウン新大久保に住んでいる。その最前線で中国人として、どうして韓流が日本で大きく広まったのか。なぜ韓国文化が日本人の心をとらえたのか。その真相を突き止めようと、この論文に挑戦した。

本論文の構成は以下の通りである。第1章は、まず韓流文化について論じる。東アジアをはじめ、世界に伝統文化や高級芸術、ハングル、生活様式、家電製品までも含む形となって広まった韓流ブームは、世代を超えて日本中を巻き込んだ。ファッション、映像、芸能、美容と広範囲に韓流文化の背景を論述する。第2章は、韓流と東アジアとの関係である。日本における韓流のきっかけは日韓ワールドカップ共同開催である。これを機に両国の文化的交流は進み、2003年に放映されたテレビドラマ『冬のソナタ』の大ヒットによって火がついた。若い女性のみならず中高年女性の心までも射抜いた。『冬ソナ』から『大長今（宮廷女官チャングムの誓い）』、等々、韓流の風は韓国語、飲食、整形、ファッションなどを席卷。さらに音楽、映画、出版、観光にまで及んだ。韓流は、国家のイメージすら向上させたのである。第3章は、韓流文化と日本のマスメディアとを論ずる。韓流現象の火付け役になった韓流ドラマに焦点を当て、日本人の韓国人へのイメージ作りがどのように成功へと導かれたのか。製造、流通、消費の面から見ていく。第4章は、「韓流の聖地」新大久保。そこは派手なハングル文字のネオンが深夜までギラギラ輝き、週末ともなるとK-POP好きの若い女性が束となって道に溢れる。テレビからは、連日すさまじい本数の韓流ドラマが流れ、レンタルショップでは、ラブコメから時代劇まで韓国ドラマだけで巨大な棚が展開されている有様だ。カラオケ、雑誌、CDショップ、コンビニ、化粧品売り場、スーパー、携帯ショップなど、日本人の生活の多くに韓国芸能界が進出している。第5章は、韓流文化のグローバル化。ブームは日本のみならず東アジアでも大人気だ。この新しい社会現象に着目し、東アジアにおける韓流文化の現状を分析し、韓流文化の特徴と展望を語る。第6章は、まとめとして日本における韓流文化の問題と展望を論じる。2011年の東日本大震災では、多くの韓国人が悲しみ、被災地の復興を祈り、新大久保でも街頭募金活動が展開された。韓流スターたちもこぞってチャティーに参加、募金額は105億ウォン集まったという。それは日本人が韓流を通じ韓国を知り良さを認めたのと同様に、韓国人も日本の良さを知り認めたに他ならない。現在、日韓関係は政治的には決して良好とは言えない。だが韓流によって目覚めた一般大衆の意識は後退することはないと思いたい。市民レベルで培った関係を狭量なナショナリズムで葬り去ることは両国民にとっても、平和を願う中国をはじめアジア諸国民にとってもこの上なく残念でならない。

【主要な参考文献】

- ・ 康熙奉『だれかに教えたくなる韓流のひみつ』PHP 研究所 2012年
- ・ クォン・ヨンソク『韓国 歴史・現代ドラマの謎』日本文芸社 2012年
- ・ 李昊宰『韓国外交政策の理想と現実』法政大学出版局 2008年
- ・ 金美林『韓国映像コンテンツ産業の成長と国際流通—規制から支援政策へ』慶應義塾大学出版会 2013年